

# 横浜市立大学 木原生物学研究所

1. 舞岡キャンパス
2. 沿革
3. 部門
4. 地域貢献

# 横浜市立大学 木原生物学研究所

**1. 舞岡キャンパス**

2. 沿革

3. 部門

4. 地域貢献



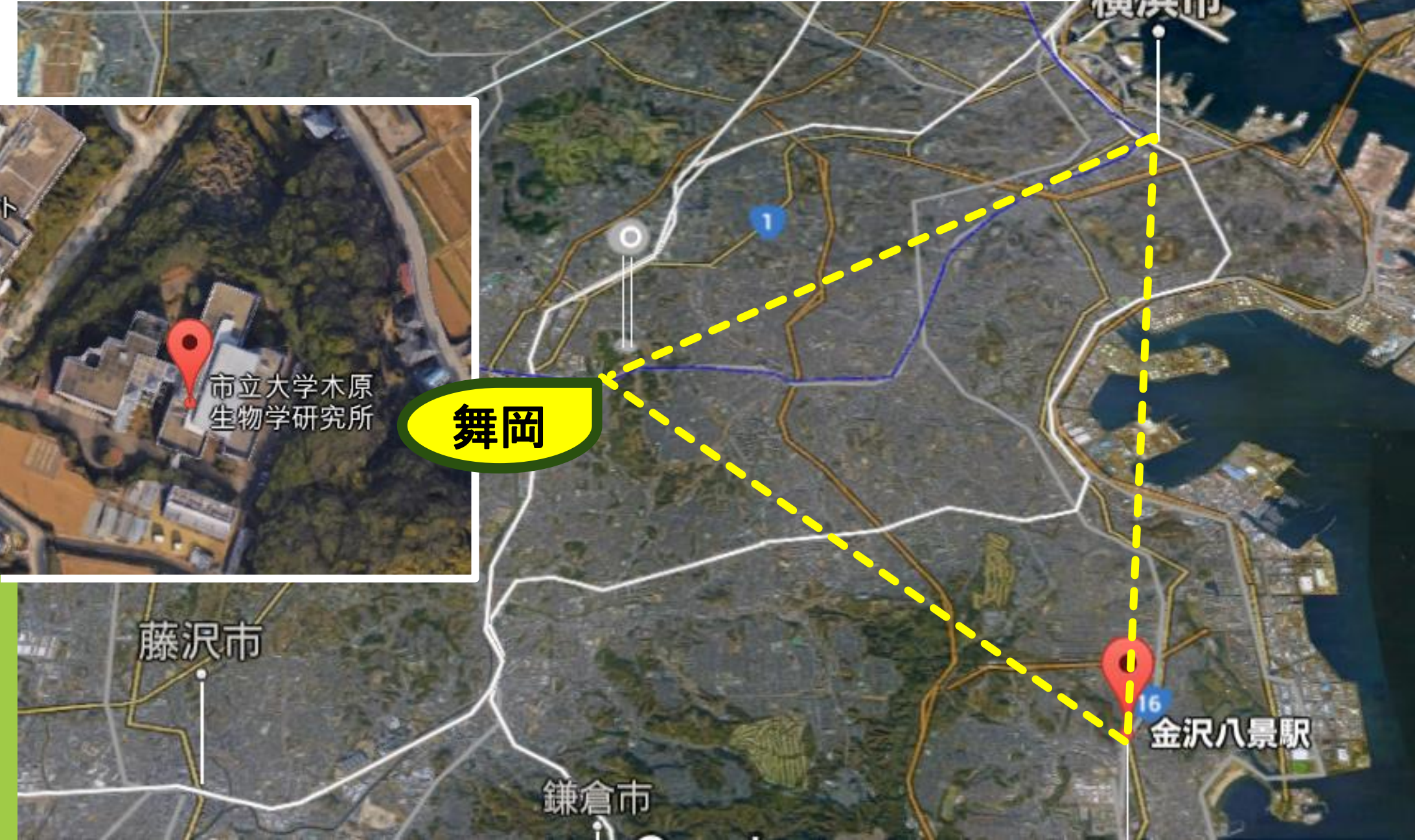
# 舞岡キャンパス



2006



# 木原生物学研究所 (横浜市戸塚区舞岡町)





# 地下鉄 上大岡 → 舞岡





# 地下鉄 舞岡駅











横浜国立大学  
木原生物學研究所

研究所 入口



# 研究所 正門



天皇皇后兩陛下  
行幸記念碑  
(2010年9月15日)



# 研究所前面

## 1995



ヤマボウシ

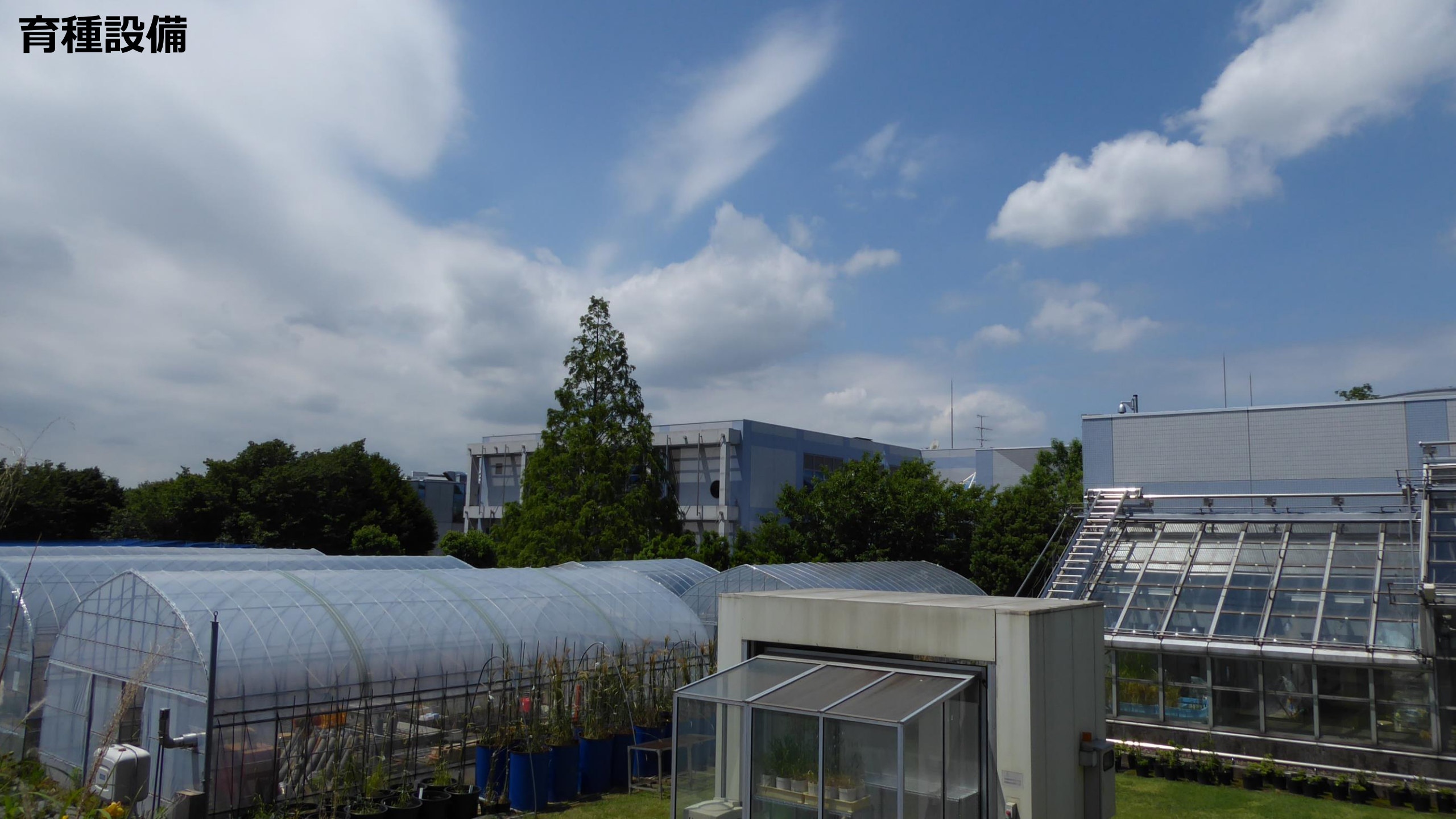


# 研究所中庭



オブジェ：  
プラスミドDNA





# 育種設備



# 育種設備





# 圃場





# コムギ遺伝資源 6000系統





# トウガラシ遺伝資源 800系統







ボケ



ユリ



トウガラシ

コムギ





シャクナゲ



モモ



モクレン



ツバキ







メジロ



ヤマボウシ



リス



周辺農家 耕作地



# 横浜市立大学 木原生物学研究所

1. 舞岡キャンパス
- 2. 沿革**
3. 部門
4. 地域貢献



# 木原生物学研究所の変遷

京都～ 横浜 ～ 三島 ～ 横浜 ～ 横浜・舞岡  
六ツ川 六ツ川・中村町





# 沿革

昭和17年（1942年）京都にて財団法人木原生物学研究所の設立

昭和32年（1957年）横浜市南区六ッ川に研究所を移設

昭和57年（1982年）財団法人木原生物学研究所設立40周年を機に公的機関への寄託を検討開始

昭和59年（1984年）横浜市立大学の附置研究所として再発足（南区六ッ川，中村町）

昭和60年（1985年）研究所と連携してライフサイエンス研究を支援する財団法人木原記念横浜生命科学振興財団の発足、横浜市が戸塚区舞岡地区にリサーチパークを構想

平成 5年（1993年）舞岡リサーチパークの中核施設として木原生物学研究所新研究棟の着工

平成 7年（1995年）新しい横浜市立大学木原生物学研究所のオープン

平成17年（2005年）横浜市立大学の公立大学法人化に伴い木原生物学研究所を植物科学の先端的研究所に特化することとし、第1期（2005-2010年度）中期計画を策定

平成18年（2006年）駒嶺穆所長の指導により公立大学法人第1期中期計画に沿った改革を実施

平成20年（2008年）理化学研究所および農業生物資源研究所との連携大学院協定の締結

平成22年（2010年）天皇皇后両陛下ご訪問

重田諭吉所長の指導による第2期中期計画（2011-2016年度）の方針検討

平成23年（2011年）第2期中期計画に沿った新しい研究活動の実施



昭和17年（1942年）京都にて財団法人木原生物学研究所の設立

昭和32年（1957年）横浜市南区六ッ川に研究所を移設

昭和57年（1982年）財団法人木原生物学研究所設立40周年を機に公的機関への寄託を検討開始

昭和59年（1984年）横浜市立大学の附置研究所として再発足（南区六ッ川，中村町）

昭和60年（1985年）研究所と連携してライフサイエンス研究を支援する財団法人木原記念横浜生命科学振興財団の発足、横浜市が戸塚区舞岡地区にリサーチパークを構想

平成 5年（1993年）舞岡リサーチパークの中核施設として木原生物学研究所新研究棟の着工

平成 7年（1995年）新しい横浜市立大学木原生物学研究所のオープン

平成17年（2005年）横浜市立大学の公立大学法人化に伴い木原生物学研究所を植物科学の先端的研究所に特化することとし、第1期（2005-2010年度）中期計画を策定

平成18年（2006年）駒嶺穆所長の指導により公立大学法人第1期中期計画に沿った改革を実施

平成20年（2008年）理化学研究所および農業生物資源研究所との連携大学院協定の締結

平成22年（2010年）天皇皇后両陛下ご訪問

重田諭吉所長の指導による第2期中期計画（2011-2016年度）の方針検討

平成23年（2011年）第2期中期計画に沿った新しい研究活動の実施



1942（昭和17年）

## 財団法人 木原生物学研究所 設立

1942  
木原均49歳

### ▶ 敷地

朝日ビール農場の借用（京都 物集女 2000坪）

### ▶ 研究資金出資

甜菜糖（てんさいとう）\*1 関係各社（北海道）

東洋紡績（大阪）

大日本麦酒（東京）\*2

### ▶ 支援者

文部省（認可元 大学学術局 本多局長）

**研究資金の行き詰まりへの対処にも助言**

農林省

ビール会社（大阪吹田工場長 橋谷義孝博士）

土地提供（安田種吉氏より購入）

### ▶ 部門（3学科）

細胞遺伝学科

生理学科

応用遺伝学科

\*1 甜菜糖（てんさいとう）：サトウダイコンから精製した糖

\*2 サッポロビールとアサヒビールの前身



1942



YWCA建家移築

(財)木原生物学研究所 1942(昭和17)

物集女



# 沿革

1957

木原均64歳

## 1955 三島 国立遺伝研 第2代所長

昭和17年（1942年）京都にて財団法人木原生物学研究所

昭和32年（1957年）横浜市南区六ッ川に研究所を移設

昭和57年（1982年）財団法人木原生物学研究所設立40周年を機に公的機関への寄託を検討開始

昭和59年（1984年）横浜市立大学の附置研究所として再発足（南区六ッ川，中村町）

昭和60年（1985年）研究所と連携してライフサイエンス研究を支援する財団法人木原記念横浜生命科学振興財団の発足、横浜市が戸塚区舞岡地区にリサーチパークを構想

平成 5年（1993年）舞岡リサーチパークの中核施設として木原生物学研究所新研究棟の着工

平成 7年（1995年）新しい横浜市立大学木原生物学研究所のオープン

平成17年（2005年）横浜市立大学の公立大学法人化に伴い木原生物学研究所を植物科学の先端的研究所に特化することとし、第1期（2005-2010年度）中期計画を策定

平成18年（2006年）駒嶺穆所長の指導により公立大学法人第1期中期計画に沿った改革を実施

平成20年（2008年）理化学研究所および農業生物資源研究所との連携大学院協定の締結

平成22年（2010年）天皇皇后両陛下ご訪問

重田諭吉所長の指導による第2期中期計画（2011-2016年度）の方針検討

平成23年（2011年）第2期中期計画に沿った新しい研究活動の実施



1957 (昭和32年)

## 財団法人 木原生物学研究所 横浜移転\*1

1957  
木原均64歳

### ▶ 敷地

(南区 六ツ川 10000坪 500円/坪)

### ▶ 移転費用

募金 (文部省許可 **3000万円**) \*2

大日本製糖 (藤山愛一郎社長)

ビール会社 (常務)

他

### ▶ 支援者

研究資金 (吹田工場長 橋谷義孝博士)

土地紹介 (横浜市長 平沼亮三)

藤倉氏別荘跡地 (石井正愛氏所有)

買収整理 (横浜市建築局長・住宅課長)

\*1 木原均 妻の出身地  
金沢区泥亀 長島家 ご息女



\*2 **現在の5～6億円**





1957

財団法人 木原生物学研究所 横浜・六ツ川 1957



横浜市こども植物園 六ツ川 Aug2016

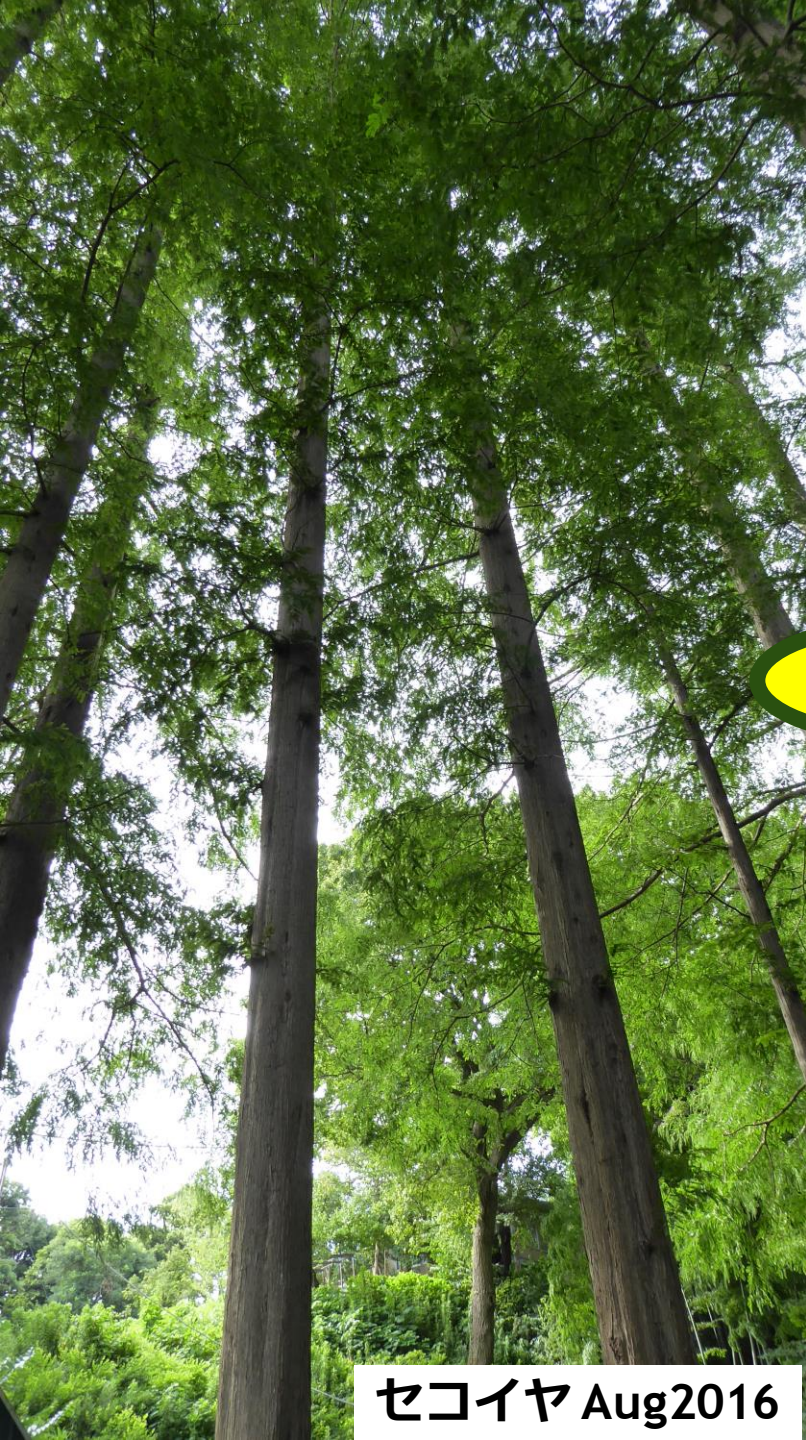


縄文・弥生・古墳時代遺跡

牧場（森永乳業）

横浜市・六ツ川丘陵地 1955.11





セコイヤ Aug2016





1969  
木原均76歳





1969（昭和44年）

財団法人 木原生物学研究所

三島分室 (1969-1978)

研究資金逼迫

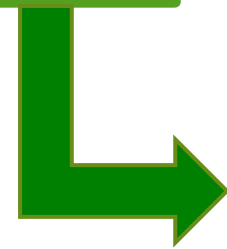
1970（昭和45年）

六ツ川敷地 70% と研究施設

横浜市へ売却

1978（昭和53年）

三島分室閉鎖



1979（昭和54年）

横浜市こども植物園開園

1982（昭和57年）

公的機関への預託検討

1969-1982



1982  
木原均89歳



当研究所は、コムギとその近縁野生種を中心とした遺伝資源の系統保存、研究交流および研究情報センターの役割を果している。現在、この伝統を継続、発展させるため、横浜市立大学への寄贈移管の準備がすすめられている。

**(財)木原生物学研究所 六ツ川**



2016.7

六ツ川 木原生研跡 木原均旧居





昭和17年（1942年）京都にて財団法人木原生物学研究所の設立

昭和32年（1957年）横浜市南区六ッ川に研究所を移設

昭和57年（1982年）財団法人木原生物学研究所設立40周年を機に公的機関への寄託を検討開始

昭和59年（1984年）横浜市立大学の附置研究所として再発足(南区六ッ川，中村町)

昭和60年（1985年）研究所と連携してライフサイエンス研究を支援する財団法人木原記念横浜生命科学振興財団の発足、横浜市が戸塚区舞岡地区にリサーチパークを構想

平成 5年（1993年）舞岡リサーチパークの中核施設として木原生物学研究所新研究棟の着工

平成 7年（1995年）新しい横浜市立大学木原生物学研究所のオープン

平成17年（2005年）横浜市立大学の公立大学法人化に伴い木原生物学研究所を植物科学の先端的研究所に特化することとし、第1期（2005-2010年度）中期計画を策定

平成18年（2006年）駒嶺穆所長の指導により公立大学法人第1期中期計画に沿った改革を実施

平成20年（2008年）理化学研究所および農業生物資源研究所との連携大学院協定の締結

平成22年（2010年）天皇皇后両陛下ご訪問

重田諭吉所長の指導による第2期中期計画（2011-2016年度）の方針検討

平成23年（2011年）第2期中期計画に沿った新しい研究活動の実施



1984 (昭和59年)

## 横浜市立大学 木原生物学研究所

1984  
木原均91歳

### 移管当初 (案)

▶ 研究所本部

南区 六ツ川

▶ 研究所分室

南区 中村町 (旧医学部施設跡)

▶ 事務室

金沢区瀬戸

横浜市立大学木原生物学研究所担当

▶ 部門 (6部門)

細胞遺伝学

生殖生理学

遺伝進化学

資源生物学

生物工学

細胞生物学



1984 (昭和59年)

## 横浜市立大学 木原生物学研究所

▶ 研究所本部

南区 六ツ川

▶ 研究所分室 (基礎医学研究)

南区 中村町 (旧医学部施設跡)

▶ 事務室

金沢区瀬戸

横浜市立大学木原生物学研究所担当

1984

### 移管直後

▶ 部門 (4部門)

#### 植物系

遺伝進化学 (六ツ川)

細胞遺伝学 (中村町)

#### 動物系

生物工学 (中村町)

細胞生物学 (中村町)



▶ 1985 横浜市立大学

# 木原生物学研究所

1985  
木原均92歳

## 研究所本部

〒232 横浜市南区六ッ川3-122-20

遺伝進化学部門

1986  
木原均逝去

## 研究所分室

〒232 横浜市南区中村町2-120-3

1F 細胞遺伝学部門

2F 生物学部門

3F 細胞生物学部門

事務室 〒236 横浜市金沢区瀬戸22-2

横浜市立大学木原生物学研究所担当

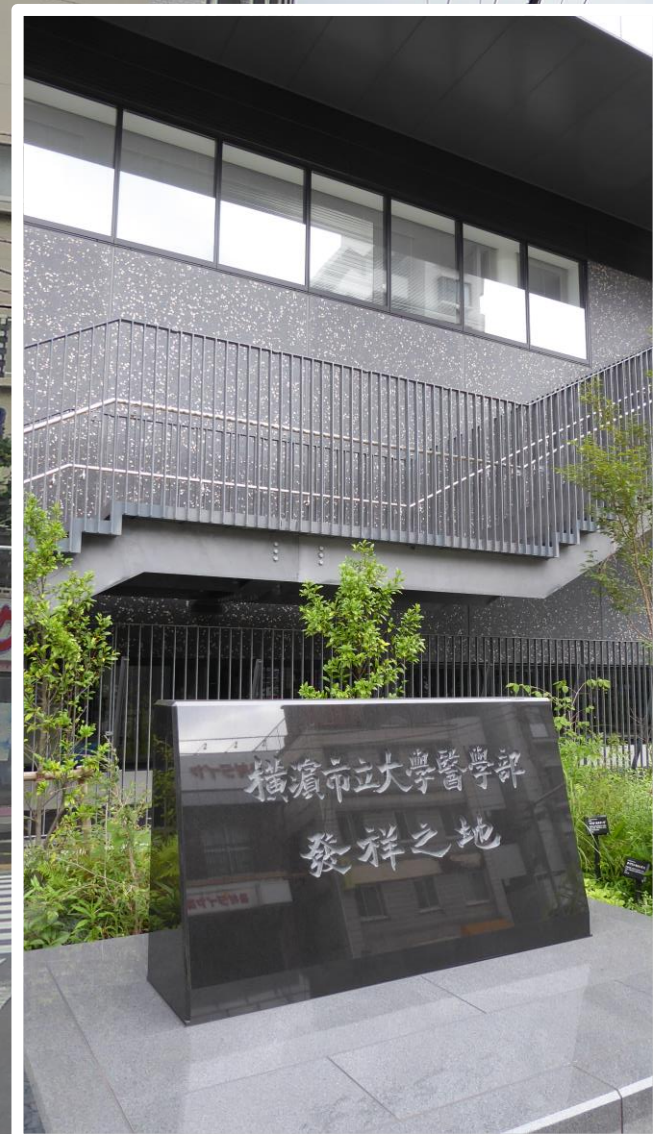


1984





2016.8





中村町 2-120-3 Aug2016



横浜市中村地域ケアプラザ（10年前に立て替え）



生研中村町分室 18Jan1994



昭和17年（1942年）京都にて財団法人木原生物学研究所の設立

昭和32年（1957年）横浜市南区六ッ川に研究所を移設

昭和57年（1982年）財団法人木原生物学研究所設立40周年を機に公的機関への寄託を検討開始

昭和59年（1984年）横浜市立大学の附置研究所として再発足（南区六ッ川，中村町）

昭和60年（1985年）研究所と連携してライフサイエンス研究を支援する財団法人木原記念横浜生命科学振興財団の発足、横浜市が戸塚区舞岡地区にリサーチパークを構想

平成 5年（1993年）舞岡リサーチパークの中核施設として木原生物学研究所新研究棟の着工

平成 7年（1995年）新しい横浜市立大学木原生物学研究所のオープン

**舞岡キャンパス**

平成17年（2005年）横浜市立大学の公立大学法人化に伴い木原生物学研究所を植物科学の先端的研究所に特化することとし、第1期（2005-2010年度）中期計画を策定

平成18年（2006年）駒嶺穆所長の指導により公立大学法人第1期中期計画に沿った改革を実施

平成20年（2008年）理化学研究所および農業生物資源研究所との連携大学院協定の締結

平成22年（2010年）天皇皇后両陛下ご訪問

重田諭吉所長の指導による第2期中期計画（2011-2016年度）の方針検討

平成23年（2011年）第2期中期計画に沿った新しい研究活動の実施



1995 (平成7年)

1995

## 横浜市立大学 木原生物学研究所 舞岡へ移転統合

### ▶ 研究所・事務室

戸塚区舞岡



### ▶ 部門 (6部門)

植物系

遺伝進化学

植物工学

細胞遺伝学

動物系

生物化学

生物工学

細胞生物学



昭和17年（1942年）京都にて財団法人木原生物学研究所の設立

昭和32年（1957年）横浜市南区六ッ川に研究所を移設

昭和57年（1982年）財団法人木原生物学研究所設立40周年を機に公的機関への寄託を検討開始

昭和59年（1984年）横浜市立大学の附置研究所として再発足（南区六ッ川，中村町）

昭和60年（1985年）研究所と連携してライフサイエンス研究を支援する財団法人木原記念横浜生命科学振興財団の発足、横浜市が戸塚区舞岡地区にリサーチパークを構想

平成 5年（1993年）舞岡リサーチパークの中核施設として木原生物学研究所新研究棟の着工

平成 7年（1995年）新しい横浜市立大学木原生物学研究所のオープン

平成17年（2005年）横浜市立大学の公立大学法人化に伴い木原生物学研究所を植物科学の先端的研究所に特化することとし、第1期（2005-2010年度）

**市大 法人化**

平成18年（2006年）駒嶺穆所長の指導により公立大学法人第1期中期計画に沿った改革を実施

平成20年（2008年）理化学研究所および農業生物資源研究所との連携大学院協定の締結

平成22年（2010年）天皇皇后両陛下ご訪問

重田諭吉所長の指導による第2期中期計画（2011-2016年度）の方針検討

平成23年（2011年）第2期中期計画に沿った新しい研究活動の実施



2005 (平成17年)

2005

公立大学法人・横浜市立大学 木原生物学研究所 **植物系特化**

▶ 研究所・事務室

戸塚区舞岡

▶ 部門 (3部門)

植物遺伝資源科学

植物ゲノム科学

植物応用ゲノム科学

2014 (平成26年)

2014

▶ 研究所・事務室

戸塚区舞岡

▶ 部門 (4部門)

植物遺伝資源科学

植物ゲノム科学

植物応用ゲノム科学

植物エピゲノム科学

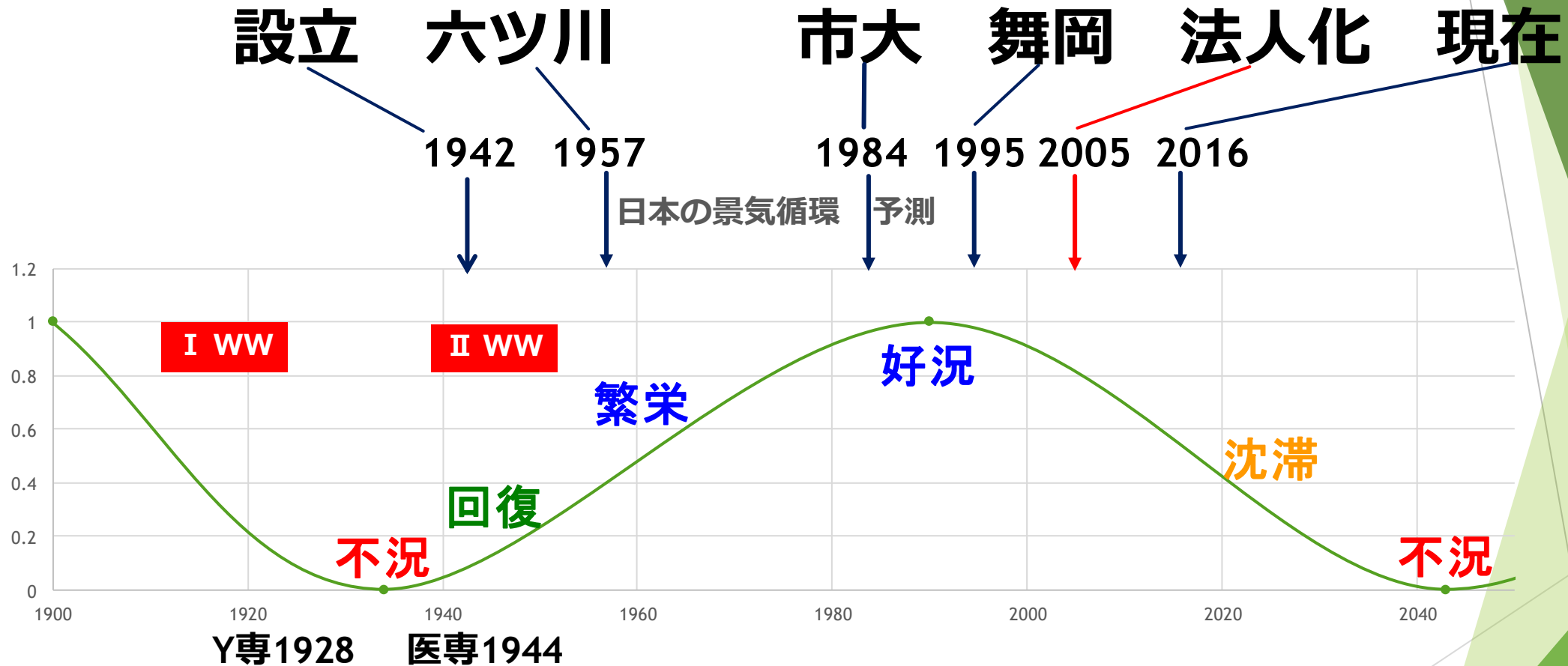


# 部門構成の変遷

所管 文部省		横浜市			
京都	横浜 六ツ川	横浜 六ツ川・中村町		横浜 舞岡	
<p>▶ 1942</p> <p>細胞遺伝学科 生理学科 応用遺伝学科</p>	<p>▶ 1957</p> <p>1983 皇太子殿下 訪問</p>	<p>▶ 1984</p> <p>細胞遺伝学 生殖生理学 遺伝進化学 資源生物学 生物学 細胞生物学</p>	<p>▶ 1984</p> <p>植物系 遺伝進化学 細胞遺伝学 動物系 生物学 細胞生物学</p>	<p>▶ 1995</p> <p>植物系 遺伝進化学 植物工学 細胞遺伝学 動物系 生物化学 生物学 細胞生物学</p>	<p>▶ 2005</p> <p>植物遺伝資源科学 植物ゲノム科学 植物応用ゲノム科学</p> <p>2010 天皇皇后両陛下 行幸</p> <p>▶ 2014</p> <p>植物遺伝資源科学 植物ゲノム科学 植物応用ゲノム科学 植物エピゲノム科学</p>



# 木原生研の変遷と時代背景（日本の景気）





# 横浜市立大学 木原生物学研究所

1. 舞岡キャンパス
2. 沿革
3. **部門**
4. 地域貢献



# 植物科学 4部門 since2014

研究部門紹介

## 植物遺伝資源科学部門

生命ナノシステム科学研究科  
生命環境システム科学専攻  
(博士前期課程、博士後期課程)

研究室の構成 (2016年4月現在)

教員	坂智広(教授)、辻寛之(講師)
----	-----------------



坂智広  
辻寛之

教授  
准教授

研究部門紹介

## 植物ゲノム科学部門

生命ナノシステム科学研究科

研究室の構成 (2016年4月現在)

教員	川浦香奈子(准教授)、一色正之(准教授)
----	----------------------



川浦 香奈子  
一色 正之

准教授  
准教授

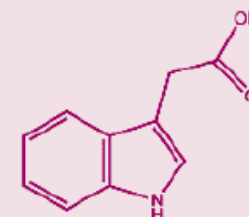
研究部門紹介

## 植物応用ゲノム科学部門

生命ナノシステム科学研究科

研究室の構成 (2016年4月現在)

教員	嶋田幸久(教授)、中村郁子(助教)
----	-------------------



嶋田 幸久  
中村 郁子

教授  
助教

研究部門紹介

## 植物エピゲノム科学部門

生命ナノシステム科学研究科

研究室の構成 (2016年4月現在)

教員	木下 哲(教授)、丸山大輔(助教)
Tel.	045-820-2428 / 2436
E-mail	tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp
ホームページ	http://tetsu-kinoshita.jp/

生命環境システム科学専攻  
(博士前期課程、博士後期課程)

木下 哲  
丸山 大輔

教授  
助教





平成28年度

文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究

# 植物新種 誕生の 原理

THE BIRTH OF  
NEW PLANT SPECIES

生殖過程の鍵と鍵穴の分子実態解明を通じて

領域代表: 名古屋大学 東山 哲也

新学術領域 採択  
2016-2021

植物エピゲノム科学部門

木下 哲 教授

植物遺伝資源科学部門

辻 寛之 准教授

生殖と花成



農林水産省・内閣府

平成26～30年度



戦略的イノベーション創造プログラム  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program



植物応用ゲノム科学部門

嶋田 幸久 教授  
中村 郁子 助教

統合オミクス情報を利用した  
トマトの体系的最適栽培管理技術の開発

オミクス利用による新世代栽培技術開発グループ

オミクスデータ活用  
野菜果物の応用研究

研究代表者： 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
野菜茶業研究所 野菜育種・ゲノム研究領域 領域長 坂田好輝



愛三種苗株式会社



理化学研究所





農林水産省

平成26～30年

植物応用ゲノム科学部門

「革新的技術開発・緊急展開事業」先導プロジェクト 嶋田 幸久 教授

国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術  
の開発

硬肉モモ品種の育成をめざした  
DNAマーカーの開発

美味しい桃の開発と  
輸出を目指した実用研究



植物ゲノム科学部門

川浦 香奈子 准教授  
一色 正之 准教授

次世代コムギ育種の  
技術開発研究

新たな育種技術の開発・改良  
パンコムギのゲノム編集技術の確立

ナショナルバイオリソースプロジェクト・コムギ  
(NBRP)

平成23～28年度  
川浦 香奈子 准教授



# アフガニスタン・コムギ遺伝資源の 里帰り計画 (SATREPS)

平成23～27年度  
植物遺伝資源科学部門

坂智広 教授



- 収集・維持・管理
- 評価・解析
- 応用・開発

遺伝子型(G)  
環境(E)  
栽培管理(M)

国際貢献  
with  
JICA 横浜

## SATREPS海外学生受け入れ

- ・アフガニスタン 修士1年 2名 修士2年 3名
- ・パラグアイ・ペルー 修士1年 各1名
- ・アフガニスタン 短期研修生 4名 国費留学生 1名

## 外国人スタッフ受け入れ

- ・インド 1名 バングラデシュ 1名 アルゼンチン 1名



# 舞岡キャンパス 学生数

	学部学生数	修士学生数	博士学生数
平成24年度	29	22	7
平成25年度	29	16	4
平成26年度	32	9	3
平成27年度	39	5	1
平成28年度	20	13	2

## 海外学生数（坂研究室 H23～27）

- ・アフガニスタン 修士1年 2名 修士2年 3名
- ・パラグアイ・ペルー 修士1年 各1名
- ・アフガニスタン 短期研修生 4名 国費留学生 1名



# 連携大学院（理化学研究所・農業生物資源研究所）

- 松井 南(客員教授) 植物合成ゲノム科学部門(理研)
- 関 原明(客員教授) 植物ゲノム発現制御システム科学部門(理研)
- 持田 恵一(客員准教授) 植物ゲノム情報科学部門(理研)
- 岡咲 洋三(客員准教授) 植物代謝システム科学部門(理研)
- 土岐 精一(客員教授) 植物分子育種科学部門(農生資源研・つくば)

## 国際共同研究

- 清水健太郎 (客員教授)  
スイスチューリッヒ大学 進化生態学 教授



# 横浜市立大学 木原生物学研究所

1. 舞岡キャンパス
2. 沿革
3. 部門
4. **地域貢献**



# 平成24年度 木原生物学研究所 地域貢献実績

# 地域貢献

開催日	イベント名	講師	講演会タイトル	場所	参加人数
8月18日	連携講座講師	横浜市立大学 国際総合科学部 生命ナノシステム科学研究科 准教授 一色 正之	「せやこども大学」における講師 小中学生を対象とした小麦のグルテンに関する講義・実習	瀬谷公会堂	15
9月25日	よこはま・とつか いぎもの・たべもの講座	横浜市立大学 木原生物学研究所 所長 吉田 茂男	野菜グルメのメリットとリスク	戸塚区役所	38

## 平成25年度 木原生物学研究所 地域貢献実績

開催日	イベント名	講師	講演会タイトル	場所	参加人数
11月17日					
12月15日	4月20日 エクステンション講座	横浜市立大学 国際総合科学部 生命ナノシステム科学研究科 教授 萩原 保成	韓国から発信する生命科学入門講座 「ゲノムって何だろう～ゲノム分析からゲノム解析へ～」	木原生物学研究所	35
1月19日	5月18日 エクステンション講座	横浜市立大学 国際総合科学部 生命ナノシステム科学研究科 教授 坂 賢広	韓国から発信する生命科学入門講座 「一粒のコムギが世界を救う～研究環境から食糧危機を回避する挑戦へ～」	木原生物学研究所	46
3月16日	8月15日 I				

## 平成26年度 木原生物学研究所 地域貢献実績

開催日	イベント名	講師	講演会タイトル	場所	参加人数
7月20日					
7月27日	4月19日 エクステンション講座	東京大学 大学院理学系研究科 教授 赤坂 平治	韓国から発信する生命科学入門講座 「進化研究に貢献した三つの海洋生物と ダーウィンの2大ミスを解く分子系統生物学」	木原生物学研究所	46
	5月17日 エクステンション講座	筑波大学 応用生命科学研究科 教授 渡辺 和隆	韓国から発信する生命科学入門講座 「ダーウィンの遺産1」	木原生物学研究所	47
8月4日	8月21日 I	筑波大学 応用生命科学研究科	韓国から発信する生命科学入門講座		

## 平成27年度 木原生物学研究所 地域貢献実績

開催日	イベント名	講師	講演会タイトル	場所	参加人数
9月15日	7月19日 I				
	5月13日～5月27日 I 座				
11月18日	7月25日 I 座		一日施設公開	君の知らない植物のフシギがここにある	木原生物学研究所 370

## 平成28年度 木原生物学研究所 地域貢献実績

開催日	イベント名	講師	講演会タイトル	場所	参加人数
6月11日	エクステンション講座	理化学研究所 研究員 恩田 義彦	植物が発熱するお話 ～ザゼンソウを例に～	木原生物学研究所	63
	一日施設公開		五感をフル活用！植物を感じよう！	木原生物学研究所	開催予定
7月30日	一日施設公開 講演会	横浜市立大学 国際総合科学部 生命ナノシステム科学研究科 准教授 辻 寛之	木原均博士との出会いとその後の研究 ～ヤマボウシ研究から芽生え、フェノロジー研究へ～	木原生物学研究所	開催予定
8月11～14日	エクステンション講座	横浜市立大学 国際総合科学部 生命ナノシステム科学研究科 准教授 一色 正之	基礎RNA実験 ～セントラルドグマを理解しよう！～【高校生対象】	木原生物学研究所	開催予定



## 舞岡キャンパス固有 の地域貢献

- ▶ 1 一日施設公開・講演会
- ▶ 2 科学映画と講演の会
- ▶ 3 市内小中高等学校との連携事業
- ▶ 4 エクステンション講座
- ▶ 5 地域交流会
- ▶ 6 COC事業
- ▶ 7 **木原記念室開設（平成21年）**

- ▶ **・平成22年3月4日開室式 秋篠宮殿下お成り**
- ▶ **・平成22年9月15日 天皇皇后両陛下行幸啓**

- ▶ 8 その他
  - ▶ ・横浜サイエンスフロンティア高校へ出張授業
  - ▶ ・（公財）木原記念横浜生命科学財団主催「高校生実習会」
  - ▶ ・日本学術振興会主催サイエンスプログラム「きらめき☆ときめきサイエンス」
  - ▶ ・COC事業YES講座講師派遣
  - ▶ ・男女共同参画センター横浜 共催講座「理系女子を育てる講座」
  - ▶ ・戸塚区総合庁舎 8階屋上農園の栽培・管理





## 市内小・中学校との連携事業



- 舞岡中学校・日限山中学校から「職業体験」の受け入れ



## 一日施設公開・講演会



## 講演会

### ■「科学映画と講演の会」



「赤外線で探る宇宙」  
「毒にも薬にもなる植物の話」  
「深海に漂う生物の世界へようこそ」  
「植物の体づくりの柔軟性に魅せられて」

## 施設の開放



会議室



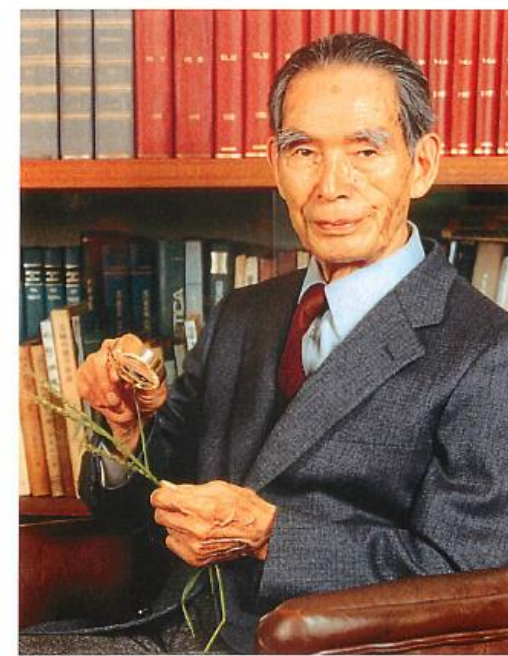
# 一日施設公開





# 木原記念室来場者数

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
4月		35	80	94	30	33		
5月		98	81	117	49	42		
6月		153	70	14	33	17		
7月		104	98	212	179	163		
8月		39	22	79	23	9		
9月		63	113	51	30	32		
10月		26	12	15	2	1		
11月		11	18	21	221	17		
12月		42	25	57	60	65		
1月		3	23	8	21	15		
2月	3月開室	3	89	29	2	49		
3月	147	182	3	53	47	15		
年度計	147	759	634	750	697	458		
総計	4037							

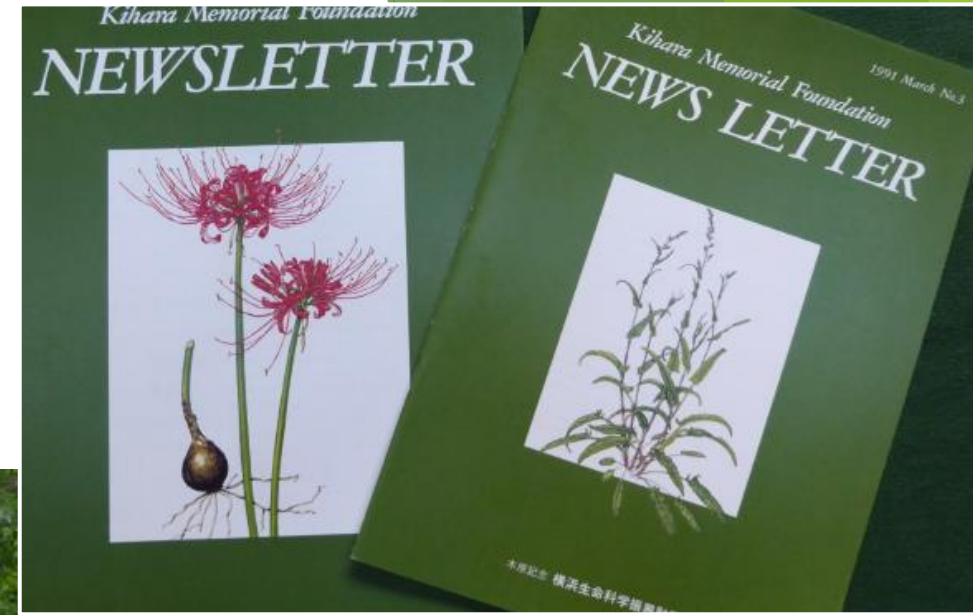


2009.3 開室



# 謝 辞

木原ゆり子 様（木原均博士 ご息女）  
荻原保成 様（本学名誉教授）



横浜市こども植物園内 木原均研究の地 レリーフ



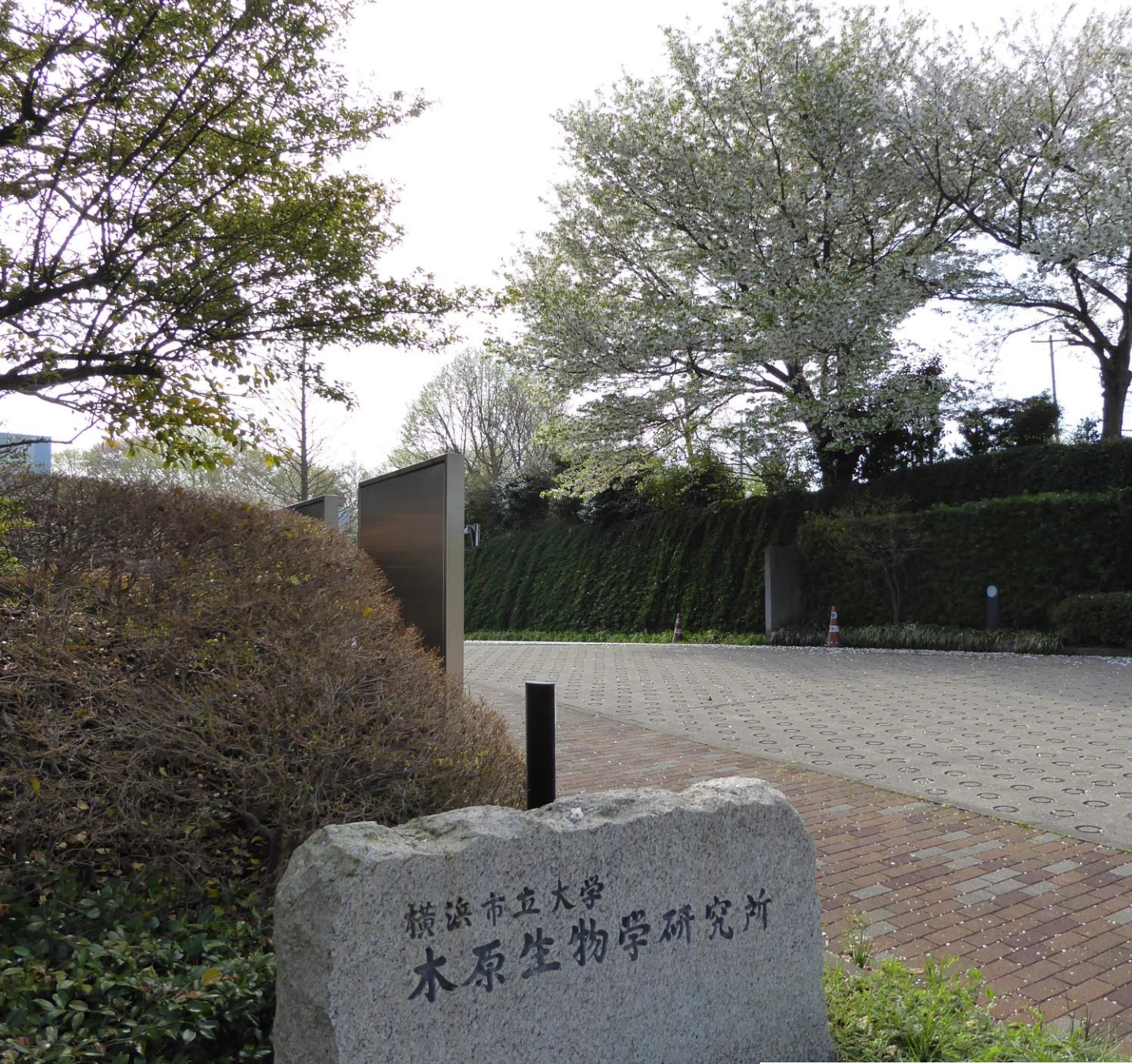




# 資料







研究所 入口



天皇皇后両陛下 行幸記念碑  
(2010年 4月 日)





ヤマボウシ





# 圃場





**コムギ遺伝資源 6000系統**











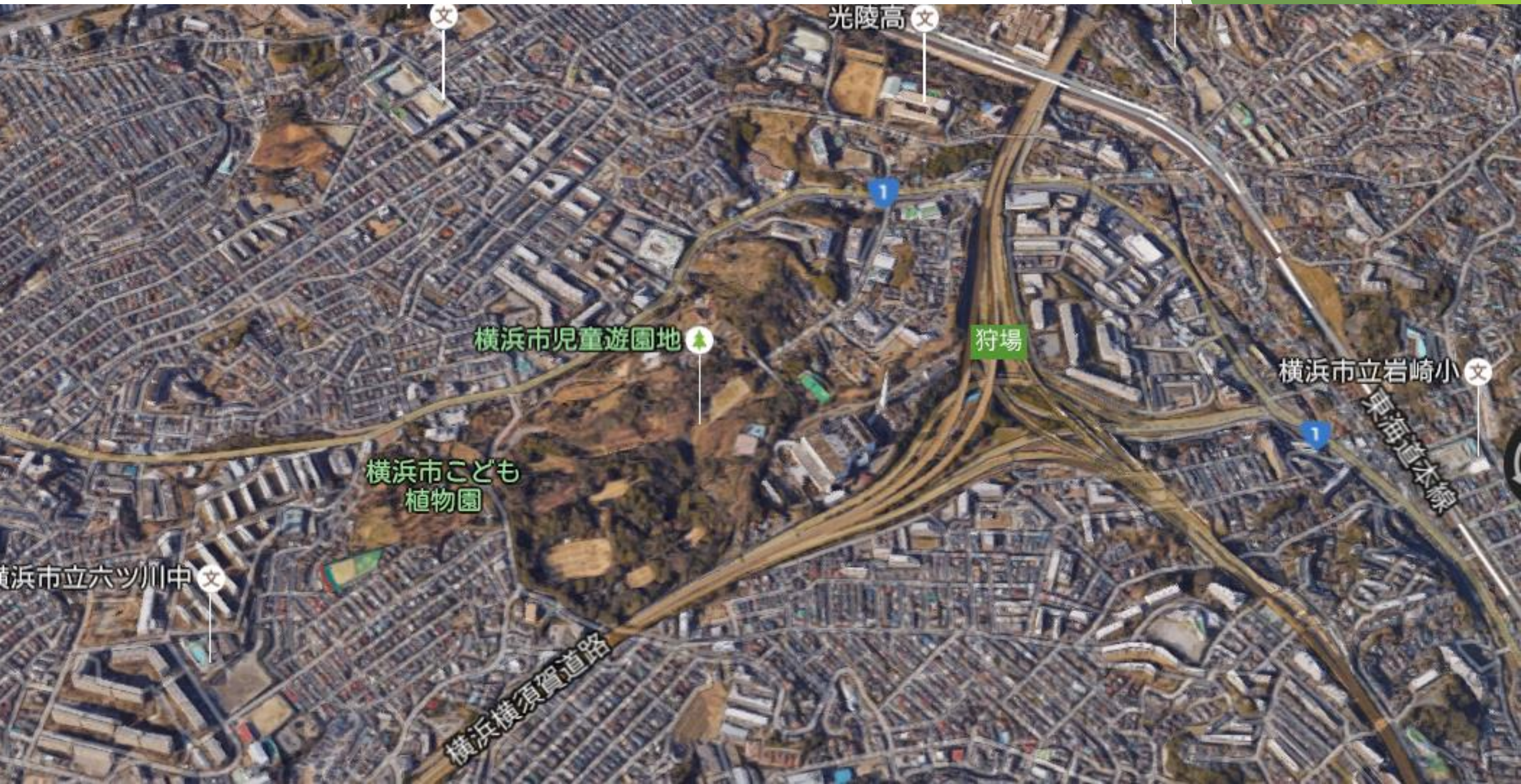












文

光陵高 文

横浜市児童遊園地



狩場

横浜市こども  
植物園

横浜市立岩崎小 文

東海道本線

横浜市立六ツ川中 文

横浜横須賀道路





出入口2

横浜市こども  
植物園



財団法人 木原生物学研究所 横浜・六ツ川 1957













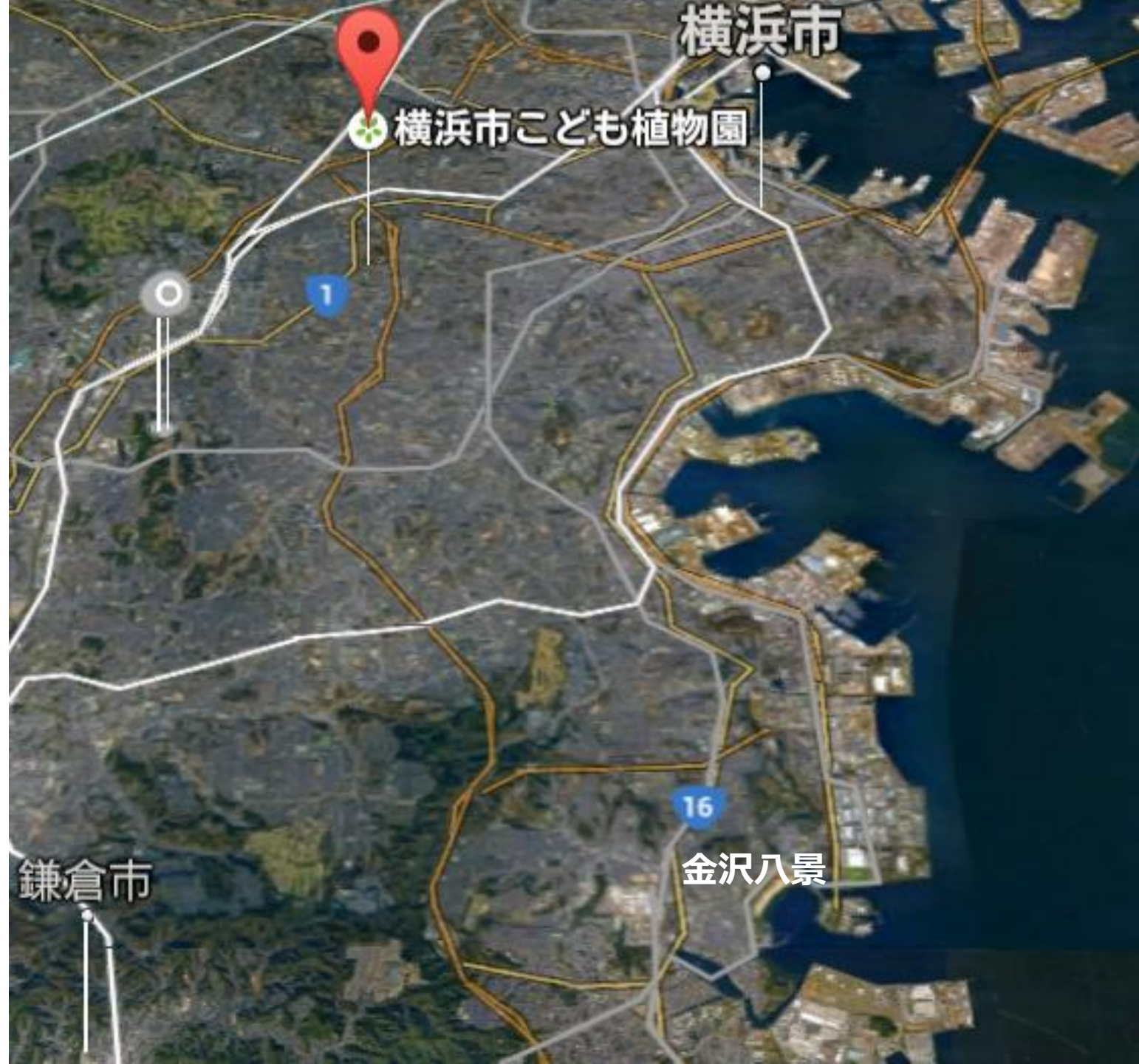
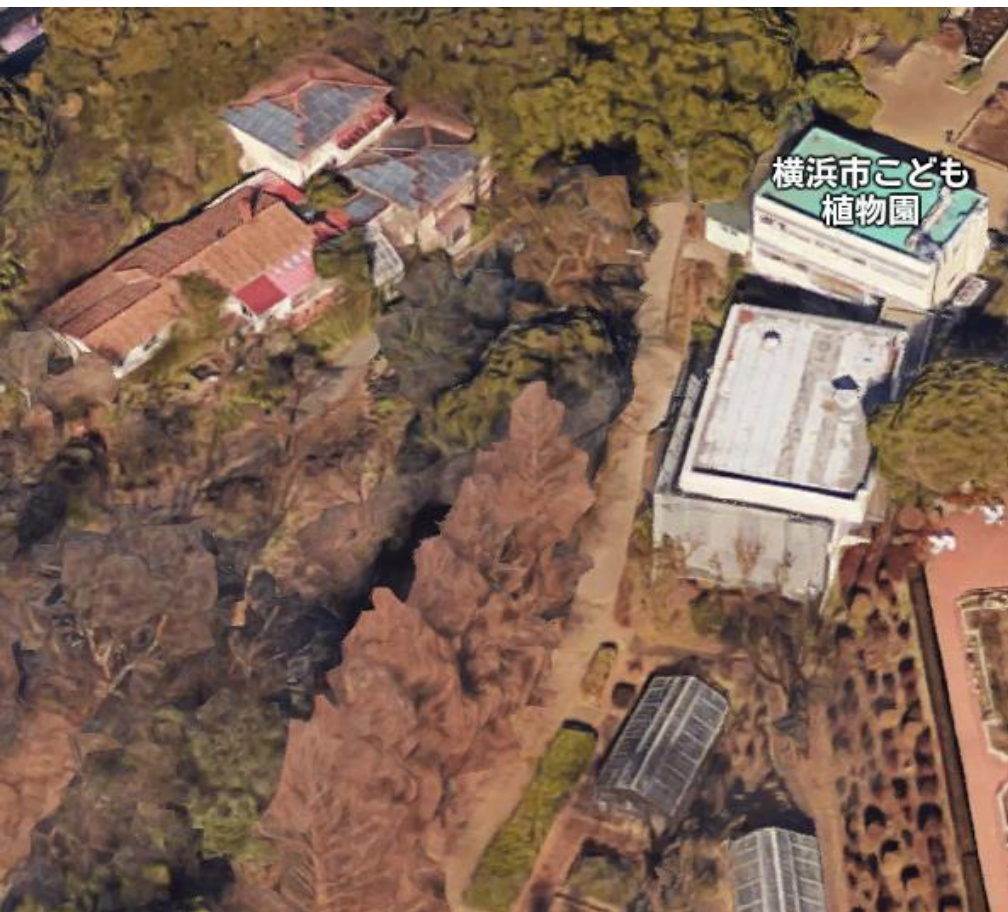
▶ 1982 当研究所は、コムギとその近縁野生種を中心とした遺伝資源の系統保存、研究交流および研究情報センターの役割を果している。現在、この伝統を継続、発展させるため、横浜国立大学への寄贈移管の準備がすすめられている。



財団法人 木原生物学研究所

〒232 横浜市南区六ツ川3丁目122番21号 ☎ (045) 741-5082













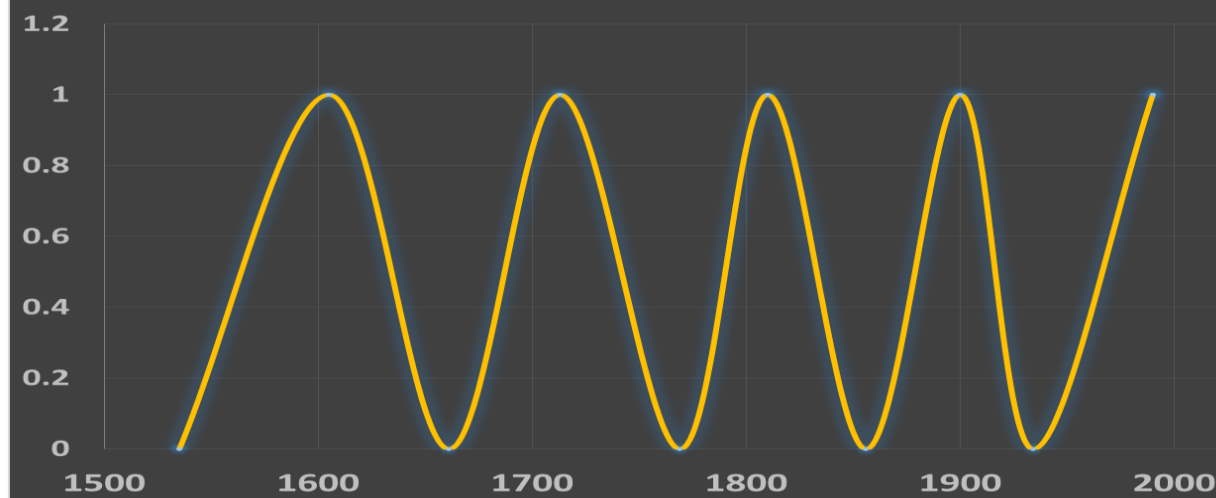


# 部門名に見る応用・実用化の視点

- ▶ 応用遺伝学科
  - ▶ 資源生物学
  - ▶ 生物工学
  - ▶ 植物工学
  - ▶ 植物遺伝資源科学
  - ▶ 植物応用ゲノム科学
- 
- ▶ 植物科学の応用に重点
  - ▶ 役立つことが重要



# 日本の景気循環



## 好景気の時代の特徴

- ・金銭が潤滑油となり、個人は幸福感で満たされる。個人も裕福になり、金銭獲得の競争が低減、競争、争いがなくなる。
- ・必要以上に豪華な建造物、細工、絵画、工芸が盛んになる。
- ・豊かさを原因とする贅沢、浪費、美食、不正、淫楽に対して寛容になる。
- ・結果として、創意工夫、深い思考、必要とされる能力開発など、努力や仕事で特徴づけられる行動は衰退、退化へと変化する。
- ・経済は衰退へと向かう。

1482－1587(文明14から天昇15年 105年間):不況 戦国時代、信長の時代(室町)  
1590－1620(天正18から元和6年 30年間):好況 豊臣秀吉全国統一、農業産業の発達、  
桃山文化(桃山・江戸)  
1648－1673(慶安1から延宝1年 25年間):不況 士農工商制度、明暦の大火(江戸)  
1680－1745(延宝8から延享2年 65年間):好況 元禄文化と町人文化、享保の改革  
1751－1787(宝暦1から天明7年 36年間):不況 寛政の改革  
1795－1825(寛政7から文政8年 30年間):好況 町人文化、化成文化  
1833－1878(天保4から明治11年 45年間):不況 天保の改革、明治維新、物価暴騰  
(江戸・明治)  
1883－1916(明治16から大正5年 33年間):好況 日銀設置、日清日露戦争、第一次  
大戦(明治・大正)  
1917－1950(大正6から昭和25年 33年間):不況 大正9年恐慌、満州事変、軍国主  
義(大正・昭和)  
1959－1991(昭和34から平成3年 62年間):好況 岩戸景気、オリンピック景気、いざ  
なぎ景気、列島改造景気、レーガン景気、平成バブル開始(昭和・平成)  
2001－2014継続(平成13年から平成26年 14年間継続):不況 平成バブルの崩壊、  
アベノミクス(平成)

出典:「日本の数寄屋づくりと景気の相関」2002年刊・原本不明

景気循環から目を離してはならない。しかし、景気循環に焦点を合わせている限り、なにもできなくなる。そもそも今、景気循環のどこにいいのかさえ、いかなる経済学者にもわからない。景気循環についてなにかがわかるのは、循環の波が通り過ぎた後である。問題は、経済情勢がいかなる段階にあるかにかかわらず、事業上の決定を行なうために四つのこと押さえておくべきである。

1. 過去の経験から最悪の状況を想定しておくこと。
2. すでに起こった変化がやがて経済に及ぼすであろう影響を想定しておくこと。
3. あらゆる経済現象が一貫した傾向の下に動くことから、その趨勢を把握しておくこと。
4. あらゆる決定において、適応と変更のための道を用意しておくこと。

(『現代の経営』)



# 日本の景気循環 予測

